

重層的支援体制整備 人材養成研修

開催のご案内

北海道では、重層的支援体制構築に向けた後方支援事業委託業務を実施しています。本事業では重層的支援体制整備事業の実施の有無にかかわらず、市町村における包括的な支援体制の整備を目指しており、その一環として、人材養成研修を開催します。

1. 目的

本研修では本人主体の個別支援と地域づくりを実践し、またはコーディネートできる人材（包括的な支援体制構築に向けてのコア人材）を育成することを目的に研修を実施します。

主な内容としては、包括的な支援体制の構築に向けての多機関連携の体制づくりや、地域資源の開発に向けた取組などを、グループワーク等を他地域の参加者と交流しながら学ぶことを想定しております。また、そうした実践を可視化・伝達するための記録力の向上や、記録を「振り返り・共有・活用」する組織文化の醸成も目指します。

2. 日時・実施方法

2.1 日時

研修は2回開催し、両方の回に参加いただくことを前提とします。

第1回

2025（R7）年 8月25日（月）

14：00 ～ 16：30 | 開場 13：30

第2回

2025（R7）年 10月24日（金）

13：30 ～ 16：30 | 開場 13：00

2.2 実施方法・場所

集合形式で開催します。

1回目

TKP 札幌ビジネスセンター赤れんが前 ホール5C

（札幌市中央区北4条西6丁目1番1 毎日札幌会館5階）

2回目

赤れんが庁舎 道民ベースA

（札幌市中央区北3条西6丁目1番地 地下1階）

3. 対象者

主な対象は、市町村や社会福祉協議会、NPO法人など包括的な支援体制の構築に携わる職員です。

4. 実施内容

4.1 講師紹介



大原 裕介 さん

社会福祉法人ゆうゆう理事長／北海道医療大学客員教授

人口減少時代における、あらゆる住民がそれぞれの立場を超えた支え合いによって福祉的实践を構築する共生型事業などの発信、民間活力を活用した社会的事業の研究など社会に必要とされる様々な実践を創り続ける。北海道医療大学の理事 評議員 客員教授として、福祉現場の魅力を伝え後進者を育成している。



高石 麗理湖 さん

国際医療福祉大学専任講師

法政大学現代福祉学部、法政大学大学院人間社会研究科、国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科卒。博士（医療福祉学）。神奈川リハビリテーション病院、366 リハビリテーション病院、原宿リハビリテーション病院の MSW を経て、厚生労働省社会・援護局地域福祉課生活困窮者支援専門官として人材養成研修等に携わる。その後、日本福祉教育専門学校非常勤講師等を経て、現在、国際医療福祉大学専任講師。専門は保健医療ソーシャルワーク、ソーシャルワーク記録、ソーシャルワーク記録教育。

4.2 主なプログラム

1) 第1回 | ひとりのニーズから多機関協働や地域共生の必要性を理解する

1 回目の研修の目的

- ・複合化した事例に本人中心をベースに多職種連携でどうアプローチするかを学ぶ
- ・「個」の課題を「地域」の課題として捉える
- ・「制度の隙間」を埋める発想・資源開発の視点を養う

第1回では、社会福祉法人ゆうゆう理事長大原様に「地域共生」について講義いただきます。そのあと、講義の内容を踏まえ、ご自身が現在関わっているケースについて、グループで共有・意見交換を実施し、課題の整理と支援策について検討します。

■第1回研修会の流れ（現時点での想定のため変更になる場合があります）

項目	内容
全体	○研修の趣旨と進め方について
講義	○複合課題と包括的支援—制度を越えて地域共生社会を目指す（仮） 講師 社会福祉法人ゆうゆう 理事長 大原 裕介 氏
個人ワーク	○アイディアシート作成 前半の講義を受けて、アイディアシート（当日配布予定）に自分がいま持っているケースで「もっとこんな人・資源とつながればいいのか」といったアイディアを落とし込みます。
GW	○グループワーク 他地域の参加者と交流、学びあい アイディアシートをグループで共有・意見交換を実施し、課題の整理と支援策について検討します。
全体	○グループ発表 ○講師からの講評、全体で意見交換 ○次回研修の予告と宿題の説明など

2) 第2回 | 実践を可視化する記録の技法を学び、地域課題抽出につなげる

2回目研修の目的

- ・日々の実践の記録力(*1)の向上と、記録を「振り返り・共有・活用」する組織文化の醸成
- ・日々の実践捉えた記録が、地域課題の抽出（将来的には新たな社会資源創出）につながることを意識する

第2回は、国際医療福祉大学専任講師 高石様に「効率的&利活用できる記録の書き方を学ぶ～F-SOIP（エフソ・アイピー）(*2)の実践を通じて～」について講義いただきます。GW1で記録力向上に向けて模擬ロールプレイを実施、GW2で地域課題抽出から地域共生を目指して課題（宿題）の振り返り・グループ内で共有します。

- (*1) ここでの記録力とは、支援の中で支援者が考えていることを構造化して、読みやすい記録を作るなど支援の効率化にもつなげていく力と位置づけています。
- (*2) F-SOIP：多職種協働の実践過程において、生活モデルの観点から、当事者のニーズや観察、支援の根拠、働きかけと当事者の反応等を、F-SOIP（F：焦点、S：主観的情報、O：客観的情報、A：アセスメント、I：介入・実施、P：プラン）の項目で可視化し、PDCAサイクルに多面的効果を生む経過記録の方法。品川区、大田区、茅野市、うるま市等の自治体をはじめ、保健医療の各分野への導入が進んでいる。

■第2回研修会の流れ（現時点での想定のため変更になる場合があります）

項目	内容
全体	○研修の進め方について説明
講義	○効率的&利活用できる記録の書き方を学ぶ～F-SOIP（エフソ・アイピー）の実践を通じて～ 講師 国際医療福祉大学専任講師 高石 麗理湖 氏
GW1	○記録力向上に向けて 模擬ロールプレイを実施し、ロールプレイについて、各自その場で記入し、グループ内で発表・共有します。
GW2	○地域課題抽出から地域共生を目指して 高石先生より第1回研修会終了時に提示した課題（宿題）に対して、ご解説いただきます。 その後、グループ内で課題（宿題）を振り返り、共有します。
全体	○グループ発表 ○事例発表者や講師からの講評 ○質疑応答

5. 申込・問い合わせ

○参加費は無料です。

○申込方法は、添付のフォーマット（Excel ファイル）に、①～⑦を記載し、下記メールアドレスまで送付ください。

① 所属機関名 ② 部署名 ③ 役職名 ④ 氏名 ⑤ 電話番号 ⑥ メールアドレス ⑦ 担当（想定）

○申込締切：[2025年8月8日（金）](#)

申し込み / 問い合わせ



一般社団法人 北海道総合研究調査会（HIT(ヒット)）

のべ はいの
担当：野邊、灰野

電話 011-222-3669

メール juusou@hit-north.or.jp

事業実施元 | 北海道 保健福祉部 福祉局 地域福祉課 地域福祉推進係

事業委託先 | 一般社団法人北海道総合研究調査会